

防災まちづくりセッション

テーマ

事前防災活動指針や 風水害復旧マニュアルの Re^{リクロス}+

運営 | 防災まちづくり部会

昨年度、防災まちづくり部会では、事前の備えとして熊本地震における熊本土会を中心に周辺士会が実施した復旧・復興支援策を再整理し、今後予想される大規模地震への復旧・復興支援活動の円滑な拡大を視野に、建築士会が講ずべき事前の施策として「建築士会事前防災活動指針」をまとめました。また、毎年のように発生する住宅の風水害に対して「風水害による被災住宅復旧マニュアル」も作成しました。

さいたま大会のセッションでは、先導的に事前防災活動の取り組みを実践している士会や、熊本地震や西日本豪雨による被災後の復興に取り組んでいる士会の活動報告から、各建築士会で取り組むことができる実践活動の項目や、その項目に対処する自治体との連

日時…9月21日(土) 10:00~12:00

会場…函館アリーナ1F スタジオA

定員…80名(予定)



防災まちづくりセッションイメージ

携活動等について具体的協議をめぐしていましたが、十分な成果を得ることはできませんでした。

「建築士会事前防災活動指針」や「風水害等による被災住宅復旧マニュアル」は、決して最終成果品ではありません。そこで北海道大会では、各士会や参加者が指針やマニュアルを活用、活動を展開した結果から明らかになった問題点や課題、活動支援の変化等について、セッションの協議を通して更新や拡大を図ることで、指針やマニュアルの Re^{リクロス}+を行いたいと考えています。

環境部会セッション

テーマ

SDGsの環境まちづくりに 向けて

自治体主体で低炭素型定常社会を創りあげる

運営 | 環境部会

埼玉大会で行う予定であったテーマを改めて今年度の全国大会で開催します。

地球温暖化の防止について、2015年にCOP21のパリ協定で脱炭素社会への移行が宣言されました。同年に国連で持続可能な17の開発目標(SDGs)を2016年から2030年までに実施する目標が掲げられ、世界の貧困や環境問題などの17の開発目標にしっかり取り組むことが提唱されています。これからの日本の地域社会でも、地球温暖化の防止と人口縮減社会というこの2つの課題について同時に自治体・コミュニティで解決しなくてはなりません。

昨年の大会ではCO₂排出量の削減という目標のもと、建築物省エネ法に関わる調査から地域の声を汲み上げることがいかに重要か、地域の自主性を大事にするプロセスを今後とも進めていくことを

日時…9月21日(土) 10:00~12:00

会場…函館アリーナ1F 多目的会議室A

定員…80名(予定)



環境部会セッションイメージ

確認しました。一方SDGsにおいて人口縮減社会でも、地域の歴史、風土を生かして定常社会を創りあげる方式を探し、その中にもつくり力、発信力を高める試みがいくつかの自治体で生まれています。単位建築士会でも持続可能な17の開発目標に関連する活動が行われています。

今大会ではその関連性を明らかにして、自治体とともに今後の各地の単位士会の会員が地域の温暖化対策と人口縮減社会への対応のどのように力を尽くすことができるかSDGsを主題として熱く語り合う場といたします。